

抗ヲ終レリ斯クテ敵ハ遂次沖繩本島及其周邊
諸島嶼ニ對テ戡定作戰ヲ開始シ沖繩北中飛
行場ヲ中核トスル大空軍基地ノ本格的設定ニ着
手スルト共ニ基地ノ實用化ニ狂奔スルニ至レリ
六月二十日頃ニ於ケル沖繩方面敵情附圖第三
ノ如シ

空

我カ航空部隊ノ狀況

我カ航空部隊ハ開戦以來敵艦船ニ甚大ナル損害
ヲ與ヘタルモ約三ヶ月ニ亘ル連續不斷ノ兵力投入
為難ヨリ消耗亦甚カラス
本島方面ノ敵機ハ我カ航空部隊就中第六航空軍ヲ於
テモ六月半旬頃來遂次其力ノ投入ヲ控制シテ次期
作戰ニ備スルニ至レリ
之ヨリ先頭團ハ五月下旬迄攻撃ヲ以テ一應沖繩方
面ヲ對スル本格的準備ヲ中止シ直ニ次期作戰

矣

美トシテ敵ノ宮古島方面ニ對スル上陸進攻ヲ對象ト
スニ備ヘツツ戦力ノ充實ニ努ム

六月上旬師團ノ沖繩方面ニ對スル作戰中止時ニ於
ケル部心ノ態勢並ニ我カ戦力ノ狀況附圖第四
其ノ一乃至其ノ三ノ如シ

交

第六 今次作戰(戰巖)ニ於ケル戰訓

其一 今次作戰ノ失敗ニ關スル反省ト將來ノ教訓

一 緒言

今次作戰ノ経緯ヲ回顧シ其ノ失敗ノ原因ヲ反省スル時
幾多ノ貴重ナル教訓ヲ得ルモ之ヲ一言シテ掩ヘハ真
ノ意味ニ於ケル作戰計畫ノ樹立ナカリシニ歸著ス
ト云フモ過言ニ非サルヤ

即チ第三十二軍及第十方面軍ニ於テハ夫々自己
ノ立場ニ於ケル作戰計畫ハ樹立セラレアリシヲ以テ

六

一應其ノ形式ハ整ヒアリタルモ其ノ實質ニ於テハ何レモ
 陸海戦力乃至ハ空地戰力ノ統合發揮ニ於テ全クノ
 骨抜キニシテ殆ト其ノ根本ニ觸レタル實績ヲ見ス
 又大本營ニ於テ東支那海周邊地域ニ於ケル航空
 作戰指導要領ニ關スル大陸命發令セラレタルモ空
 地陸海ノ統合戰力ノ發揮ニ關スル計畫及實施
 ニ於テ缺クル所尠カラサルモアリシノミナラス今次作
 戰ニ於テ最モ重要ナル沖繩決戰ノ腹ヲ決ムル勇

亮

線交セシニ墮シ空地陸海戰力ノ統合發揮ヲ誤ラシム

ルノ最大原因ヲ作レリ

以下特ニ作戰(作戰準備)上ノ重要問題ニ關シ若

干ノ觀察ヲ試シントス

一 飛行師團ノ側面的觀察ニ基ク戰訓

ノ決戰思想(必勝ノ信念)ノ缺如

長期ニ亘ル敗戦ハ統帥部ノ墮落ヲ來シ不知不

識ノ間戰術思想ハ敗戦防守的トナリ作戰ヲ消極

退嬰ニ導クノミナラス絶ヘス發刺積極的ニ戰機ヲ

七〇

捕捉スルノ氣カヲ失フニ至ル

今次沖繩作戰ニ於テモ其ノ例ニ減レス上ハ唯倭軍

ニ在ル中央幕僚ヨリ下ハ第一線部隊ニ至ル迄敗

戦ノ影響音ニ受ケタル所甚大ナリ 蓋シ沖繩作戰開

始前ニ於テハ大本營ノ腹モ恐ラノ沖繩作戰ヲ一種ノ

持久戦ト見做シ作戰ヲ準備セラレタルモノト思惟スル

モ是抑々今次作戰ヲ失敗ニ導キタル重大原因ト言

ハサルヘカラス

題ヲ持久戦ト思惟ノ根本ニハコレイテ作戰ノ反

抑々米軍カ本土ニ上陸ヲ決行セシカ爲ニハ尨大ナル空
 海基地特ニ空軍基地ニ推進ヲ絶對ニ必要トシ比島
 ノ夫ト本土ノ夫トハ作戰ノ實體ト様相トニ於テ全然異
 ノ趣ヲ異ニスルハ火ヲ睹ルヨリモ明ニシテ沖繩ニ投入スル戰
 カハ如何ニ尨大トナルモ本土防衛ヲ爲ニ「プラス」戰カトハ
 ナリテモ決シテ「マイナス」トハナラサルノミナラス本土安全
 ハ沖繩ノ確保ヲ前提トスヘキヲ以テ各種ノ有利ナル條
 件ヲ有スル沖繩作戰ニ於テハ當然國軍ノ主力ヲ

七三

第一線ノ侵潤シ當初ヨリ全然水際決戰思想
 ヲ放棄シ兵力ヲ結集ヲ圖シ長ク健在セントスル思想
 實ニ「プラス」ニシテ「一般」ノ攻勢ノ氣力ヲ失フ戰力ハ豫
 今次沖繩作戰ニ於テ若シモ「中」中「下」第一線
 將兵ニ至ル迄當初ノ「決戰」思想ヲ以テ作
 戰ニ臨ミシランニハ左記諸件ノ如キ重要問題ハ必
 然的ニ事前ニ處理セラレ第一線將兵ノ士氣亦大

尚

2 航空戦力ノ實力ニ對スル正鵠ナル認識ノ缺如
 1) イテニ於ケル捷一號航空作戦ノ失敗ハ夫以前ニ
 於ケル各種航空作戦ノ失敗ト共ニ所謂航空ヲ
 知ラサル「素人」ヲシテ「航空特ダニ足ラズ」トノ誤レ
 ル先入感ヲ懷カシムル至レリ
 而シテ此ノ先入感タルヤ延イテハ沖繩決戦思想ヲ放
 棄トナリ或ハ空地協同陸海戦力統合問題ヲ輕視シ

矣

入要領及其ノ時機及投入時ニ於ケル陸海軍航空部
 隊ノ協力要領

1 沖繩本島及伊江島ニ對スル守備兵力ノ増強並ニ
 1. 裝備ノ充實
 (四) 空地ノ統合戦力發揮ノ爲メ具體的問題ノ解決
 (第三十二軍ノ防禦方針ノ修正配備變更及反撃
 要領ノ確定等)

左記

地上兵團獨力防禦思想ノ擡頭ヲ促シ間接的ニ
 今次敗戦ノ主因ヲ爲スニ至レリ抑々「イテ」ノ航空
 作戦ハ「敗ルヘクシテ敗レタルモ」ニシテ其ノ原因ハ一
 ニシテ足ラスト雖モ其ノ大部ハ航空作戦ノ致命
 傷トモ稱スヘキ準備ナキ（通信情報網及飛行場
 準備ノ不備、整備力ノ缺如、飛行機ノ分散、秘
 匿施設ノ皆無器材準備特ニ飛行機整備ノ不良
 地上準備ノ整ハサル航空大部隊ノ長距離急速機

航空作戦ヲ指導セントセシ所ニ存シ決シテ航空ノ
 無力ヲ實證スルモノニ非サリシニ拘ラス之ニ氣付ク所
 ・ 尠ナカリシヲ遺憾トス

之ニ反シ今次沖繩作戦ニ於テハ某程度ノ航空
 威力ヲ發揮セシヲ以テ島嶼防衛ニ於ケル航空ノ
 實力ヲ「素人」ニ認識セシムル爲ニ絶好ノ良戦
 例トナレルモノト確信ス

3. 島嶼防衛作戦ニ於ケル空地戦力ノ統合發揮ニ就テ
 島嶼防衛作戦ニ於ケル航空戦力ノ地位ニ就テハ

今更贅言ヲ要セサルモ制空權ヲ敵ニ委ネ水上艦隊絶無ナル國軍ハ作戦ニ於テハ空地戦心ノ統合發揮ヲ十全ナラシメ以テ最モ有效ニ戦力ヲ發揚スルコト極メテ重要ナリ

以下今次作戦ヨリ得タル若干ノ教訓ヲ述フ

(1) 地上兵團特ニ參謀ノ近代戰就中航空作戦ニ關スル認識ヲ劃期的ニ向上スルヲ要ス

今次作戦ニ於ケル球兵團ハ近代戰ヲ理解セス

戰術指導ヲ誤リ大本營ノ幕僚ハ沖繩作戦ニ發

揮シ得ヘキ我カ航空威力ヲ至當ニ認識スル所ナカリ

シト沖繩ニ推進シ敵側ノ航空戦力ノ認識ニ缺

如セル所アシシ為戦局挽回ノ重要戦機ヲ逸セリ

(2) 地上兵團ハ我カ航空基地ヲ最後迄確保セサルヘカ

ラス眞ニ止ムヲ得サル場合ニ於テモ之ヲ敵手ニ委ス

ヘカラス此ノ思想ニ缺如セル為球兵團ニシテ今

次航空作戦カ如何ニ困難ニシテ且ツ不能率的ナ

リシカハ萬人等シク之ヲ認ムル所ナルヘシ

(一) 航空戦力ノ發揮ニ一定ノ期間ヲ必要トス
 航空戦力ハ氣象月齡彼我制空力ノ懸隔飛行場
 施設我カ練度等各種ノ條件ニ依リ變化スヘキモ
 ノニシテ不安定戦カタルノ短所ヲ有スルノミナラス
 同時ニ投入シ得ル兵力ハ自ラ限度アリ
 従ツテ之等ノ諸條件ニ禍ニラルコトナク安定セ
 ル戦力ヲ發揮セシカ爲ニ一定限度ノ期間ヲ與フ
 ルコト絶對ニ必要ナリ
 而シテ其ノ期間ハ月齡天候等ヲ考慮シ最小限

一ヶ月ト見積ラサルヘカラス

(二) 地上兵團ノ防禦ハ水際戦闘ニ徹心ニシテ獨力戰
 闘ヲ本則トセサルヘカラス
 空地兩戦力ヲ有效ニ統合發揮センカ爲テ敵
 ノ上陸前ニ主トシテ航空部隊ヲ以テ之ヲ洋上ニ撃
 滅スルハ最モ希望スル所ナルモ洋上ニ於テ敵船團
 ヲ捕捉攻撃スルハ技術上至難ノ業ニ屬スルノミナラ
 ス泊地進入後ト雖モ天候夜暗等ノ爲攻撃困難
 ナルコト屢々ナリ

註 夜間觸接等ニ依リ適時泊地進入ヲ偵知シテ羽交撃

八三

明其ノ泊地ニ特攻ヲ行フハ通常困難ナリ

故ニ地上兵團ニハ豫想スル敵兵力ヲ對シ某期間(少

クモニヶ月)ニ亘リ獨力戦闘可能ナル兵力ヲ當初ヨリ

充當スルト共ニ守備ハ飽ノ迄獨立ヲ以テスル水際戰

闘ニ徹底シ從ヒ當初航空ノ協力ヲ缺キタル場合ニ於

テモ十分敵ト對戰シ得ル兵力ヲ第一線ニ展開シ

以テ敵ヲ不利ナル態勢ニ於テ水際ニ「釘着」トシ航

空戰力發露トシ其間敵艦ヲ撃破スルハ大カラン

ヲ必要トス

地上兵團力敵上陸ノ當初ニ於ケル戦力ノ不足ヲ

航空部隊ニ依存セシメテ第一線ノ兵力ヲ減シ從

テ敵艦ヲ撃破スルハ大カラン

今次球兵團ノ守備ノ責任ハ本戰訓ニ逆

例ナリ

水艦砲射撃部隊ハ地上兵團ノ爲最大ノ敵ナルヲ

以テ航空ハ有力部隊ヲ以テ之ヲ制壓セサルヘカラス

八四

敵カ一度上陸セハ之ニ對スル地上兵團ノ反撃ハ困難

八五

(又ハ不可能)ナリトスル思想ハ敗戦思想ヨリ發セル

錯覺ナリ

「サイン」硫黄島等全然我カ航空戦力ヲ發揮ス

ルコト能ハサリシ戦例ハ別問題トスルモ苟モ我カ航

空(特ニ特攻)ノ威力圈内ニ在ル敵ニ對シテハ黎明

薄暮夜間等ヲ利用セハ縦ヒ制空權敵ニ在ル場

合ト雖モ我カ反撃ヲ最モ妨害スル敵レ艦砲射

地上兵團ハ夜間ヲ利用シ敵上陸ノ直後能ク

未ダ整ハサルニ乘シ猶突果敢ナル反撃ヲ與負施シ

航空部隊ノ爲進テ敵ノ艦砲射撃部隊ヲ誘

致シテ之ヲ撃滅スルノ機會ヲ作爲スルノ概ナカ

ルヘカラス

今次球兵團ニ對スル艦砲射撃部隊ニ對スル制

壓ハ十分トハ言フ能ハサリシモ同兵團ノ四月八日迄

ケル第一線大隊ノ反撃ハ完全ニ成功シアリ

(ハ)以上ノ見地ニ基キ空地戦力ノ統合發揮ノ要領

八六

ヲ白紙的ニ概轄スレハ左ノ如シ

①地上兵團ニ豫想敵兵力ニ對シ少クモニケ月

以上ヲ完全ニ守備シ得ルヲ目途トシテ兵力裝

備ヲ充當シ航空戦力ノ如何ニ關セス獨力防

禦 徹心ス

註斯クスルコトニ依リ航空ノ好目標ハ到ル所ニ現

出シ空地統合戦力ハ最大限ニ發揚セラル

②航空ノ諸般ノ狀況之ヲ許セ成ル可ク上陸當初ノ

數日間ニ空戦力ヲ投入スル如ク使用スルニ依リ

陸上時期ノ初期ニ空戦力ヲ投入スルニ依リ

否等ニ依リ航空戦力ニ著シキ消長アルヲ以テ

航空戦力投入開始ノ時期ヲ本則トシテ上陸第

一日拂曉ニ決定シ或ハ投入期間ヲ過度ニ短少

ト爲シメテ空地ノ協同ヲ律スルハ大ナル誤ナリ

彼ニ制空權ノ懸隔大ナル場合ニ於テ特ニ然リ

註一白ノ中ニ幾何ノ特攻ヲ投入シ得ルヤハ主トシテ敵ノ

妨害並ニ我カ發進基地ノ施設及數ニ依リ定

ルモノニシテ黎明攻撃等ノ場合ニ於テハ一併考慮

概ネ六機程度ヲ限度トスハク日中及薄暮ヲ出
 動ハ我カ制空權ナキ場合ニ於テ六通常困難ニシ
 テ最モ有利ナル場合ニ於テモ一日一滑走路特攻
 一隊内外(夜間黎明ヲ除ク)見テ大ナル誤ナカルヘ
 シ

又航空ノ攻撃目標ハ軍ニ輸送船ノミナシス有力
 ナル部隊ヲ以テ戦闘ノ終始ニ亘リ敵ノ艦砲射撃
 部隊ヲ完封スルコト極メテ重要ナリ

敵ニ發見セラルル所トナリテ其ノ威カヲ發揮スルニ由テ
 カリシキ之ヲ以テ直ニ敵ノ制空權下ニ於ケル水上艦
 隊ノ威カヲ過小評價スルハ危険ナリ

勿論長期ニ亘ル敵ノ制空權下ヲ於テ我カ水上艦
 艇ヲ温存スルハ相當ノ難事ニ屬シ事前ニ秘匿遮
 蔽ノ施設ヲ完備シ其ノ秘匿位置ノ選定ヲ適切ニス
 ルコト絕對必要ナルベキ之等ノ準備ニ成功セハ本
 土防衛作戰ニ於テハ距離ニ關係ヨリスルモ一夜機動

ノ可能性アルヲ以テ一部ノ艦艇ト雖モ夜暗ヲ利用シテ敵ノ泊地ニ斬込ヲ敢行セハ絶大ナル價値ヲ發揮スルモノト確信ス

九一

5. 重要正面ニ於ケル兵團ノ人事ハ作戰ノ勝敗ヲ左右ス

今次沖繩作戰ニ於ケル地上兵團防禦方針ノ是正

ニ就テハ飛行師團ハ勿論大本營並ニ第十方面軍ニ

於テモ屢々現地軍ニ對シテ要求又ハ指導スル所アリ

シモ遂ニ之カ實現ヲ見サリシハ實ニ遺憾ナリ

而シテ其ノ因由スル所亦極メテ複雑ナルモノアルヘキハ推察ニ難カラサルモ斯クノ如キ重要事項ヲ其儘ニシテ放任センカ直ニ作戰ニ齟齬ヲ來サシムルハ必然ナルヲ以テ此ノ種問題ニ就テハ事態發生ノ當初ニ於テ即時峻嚴ナル統帥權ノ行使ヲ行フト共ニ成ルヘク速ニ人事處理ヲ之ニ伴ハシムル如ク所要ノ處置ヲ講スルコト極メテ必要ナリ

三、航空部隊獨自ノ戰訓

ノ航空作戰特ニ特攻戰法ハ周密ナル計畫作戰ナラサル

九二

ヘカラス

航空作戰ハ前述ノ如ク各種不安定ナル要素ヲ包含
スルヲ以テ各種ノ狀況ニ即應シ齟齬滯滞ナク作戰ヲ
實施センカ爲ニ事前ニ於テ各種各様ノ計畫ヲ周
密ニ立案檢討シ諸準備ヲシテ之ニ伴ハシムルコト極メ
テ緊要ナリ

蓋シ制空權ノ爭奪ヲ許ス程度ノ兵力ヲ擁シ而モ
練度亦優秀ナル戰隊飛行團等ヲ運用スル場合

ニ於テハ自主的作戰ノ實施可能ナル

一時受動之陥リタル場合ニ於テモ戰機ニ投スル活潑

巧妙ナル運用ニヨリ戰勢ノ挽回敢ヘテ困難ニ非ルモ

シク劣勢ナル航空部隊ヲ以テ而モ主トシテ特攻戰

法ヲ採用セントセハ勢ヒ自主的作戰ハ極度ニ制扼セ

ラレ得テ以テ効率的戰力ノ發揮ハ專ラ準備ノ周

到ヲ待タザルヘカラスハナリ

而シテ之等ノ準備中特ニ重要ナルハ兵力ノ温存並ニ各

種機種(各戰隊)ニ應スル飛行場ノ使用區分ニ關ス

ル周密ナル計畫並ニ之ニ伴フ飛行場施設ニシテ之等

各種ノ地上諸設備ヲシテ末端ニ至ル迄終始一貫性ヲ
保持セシムルコト最モ緊要ナリ

之カ爲少クモ航空軍(獨立飛行師團)ニ於テハ運用
ニ關スル思想ノ統一ヲ圖リ末端ニ至ル迄之ヲ徹底セ
シメ置クヲ要ス

然ラサレハ作戰時一度情況ノ變化ヲ來サンカ忍テ
折角ノ周密ナル計畫ヲ破綻ヲ生セシムルニ至リ戰
カヲ低下スルノ重要原因ヲ作ルニ至ルモノトス

航空部隊之準備

航空部隊之準備ハ爲ニ六條ニテカキ得ルニ至ルニ至
ス航空部隊ノ司令部ヲ配置シ作戰準備ニ專念
セシムルヲ要アリ

今次沖繩作戰ニ於テ南西諸島ノ方面ニ對シテ作
戰準備ニ關シテ八飛行師團ノ司令部ヲ直轄ニ在實
施セシムル師團司令部ハ天一號方至三號作戰ヲ擔
任シ且ツ幕僚陣食務ヲシテ沖繩ニ對スル作戰準備
備迄手ノ行届カザル狀況ナリ

九

作戰開始前際ニ中央ニモ意見ヲ具申セル如ク他

望ノ域ニ到達セス
 敵進攻時機ノ判断困難ナル場合ニ於テハ目前ノ
 作戰準備ニ追ハレ屢々斯クノ如キ過失ヲ冒スコ
 九八

今般作戰準備ヲモ飛行機ノ洞窟掩護ノ構築

(四) 基地ノ施設

司令部ヲ沖繩ニ配置シテリシナランニ作戰準備
 上益スル所大ナルモアリタリト思料セラレ
 其ノ意味ニ於テ在沖繩第二十五飛行團司令部ヲ昨
 年十月抽出セシハ大ナル失敗ナリ
 基地ノ施設
 基地施設上特ニ著意スヘキ件左ノ如シ
 一 施設ハ遠大ナル計畫ノ下ニ當初ヨリ最大規模ヲ
 以テ著手スヘシ

トアリ嚴ニ注意ハ要アリ

ニ特攻隊ノ發進基地ハ幅員ヲ最小限一〇〇米トシ

且ツ其ノ兩側地區ハ少クモ各一〇〇米内外ノ整地

轉壓ヲ必要トス

三、誘導路及滑走路ハ降雨ノ際ニ於テモ使用可能

ナル如ク素質ノ向上ヲ必要トス

(ハ) 基地準備ト地上兵團ノ作戰準備トノ相互調

整今次作戰準備間ニ於テハ基地準備ハ專ラ

シモ戰況逼迫スル俾ヒ地上兵團ノ作戰準備ト

ト航空作戰準備トハ相互ニシテ相當ノ關

著ヲ起セリ將來上級司令部ニ於テハ航空作戰

ニ使用シ得ル兵力ハ其ノ地位ト鑑ミ大局的戰

力ヲ大ナラシム如ク相互ノ調整ヲ圖ルコトヲ要ナ

リ是即チ空地統合戰力發揮ノ基礎ナルヲ以

テ主從ノ關係ハ上級司令部ニ於テ律スヘキ事項

ナルモ地上兵團ノ參謀ハ航空ニ對スル認識不十

分ナルコト多キヲ以テ航空參謀ハ其ノ訓練

其ノ蒙ラ啓ラノ概ナカルヘカラス

3. 航空部隊ノ運用ニ就テ

(1) 奇襲ハ絶對的ナリ

優方ナル敵ノ制空下ニ於テモ其ノ間隙ヲ利用シテハ黎明薄暮夜間天候氣象ヲ利用セハ容易ニ敵ノ奇襲スルコト可能ニシテ縦ヒ晝間視度良好ナル場合ト雖モ航進高度ノ選定接敵ノ方法等ヲ工夫スルト共ニ各種ノ欺騙行動ヲ併用セハ奇襲ハ確實ニ成立スルコトナラス其ノ成功率及我カ損失

害ハ却テ強龍夜襲ヨリモ少ナルコト多シ

故ニ劣勢ナル兵力ヲ以テスル攻撃ハ飽ク迄奇襲ヲ

本則トセサルヘカラス

(2) 強龍夜襲ノ方法ニ就テ

上陸防禦作戦ニ於テ所要ニ應シ一時ニ航空大戦力ヲ投入センカ爲強龍夜襲ヲ敢行セサルヘカラサルコトアリ此ノ場合ト雖モ制空部隊ヲ以テ敵ノ戦闘機ヲ撃破シテ特攻隊ヲ投入セントスルハ危険ナリ飽ク迄奇襲主戦ノ強龍夜襲ニ徹セサルヘカラス

ハ 航空部隊ノ目標ノ選定

敵カ第一(次)上陸ノ際小型舟艇ヲ主體トスル部隊ヲ

即チ戦闘隊ハ敵戦闘隊トノ戦闘ヲ避ケ勉メテ特攻
隊ノ出動及航進間之ヲ掩護スルニ止メ敵戦闘機ニ遭
遇セハ之ヲ他方面又ハ高々度ニ牽制スル等ノ方法ニヨ
リ我カ戦闘機ノ過早ノ消耗ヲ防止セサルヘカラス
我カ戦闘機ノ補充十分ナラサル場合ニ於テ特ニ然リ
一部ノ戦闘機ト雖モ上空ヲ飛翔シアラハ特攻隊ノ起
低空高度疎開セル態勢ヲ以テスル攻撃ハ可能ナリ

以テ上陸ヲ企圖スル場合特攻ノ攻撃目標ヲ之等ノ
舟艇ニ指向セントスルハ航空ノ特性(戦力ノ不安定性ト
効果上)ト適當ナラス

斯ル如キ場合ニ於テハ當初ノ上陸部隊ハ地上兵
隊ヲ以テ先ニ撃滅シ得ル如ク配備ヲ定メ航空特攻
ノ攻撃目標依然トシテ LST 級以上ノ輸送船又ハ大型
艦艇ニ指向スルヲ至當トス

蓋シ上陸入兵團カ上陸後ハ其戦力ヲ發揮シシカ爲
テ小型舟艇ニ引續キ揚陸ヲ開始スル終多ク大(甲)型

船團ノ來着ニ待ツサルヘカラサルヲ以テ之等ノ覆滅ハ直

一五

接地上兵團ノ反撃ニ成功セシムルノ基トナルモノニシテ之
亦所謂空地戦力ノ統合發揮ノ精神ニ合致セルモノト謂
フヘシ

註勿論之カ爲上陸當初ノ好目標ヲ逸スル不可ナリ

(二) 戦法ハ創意セサルヘカラス

我ク戦法ニ對スル敵ノ對應策竝ニ敵ノ兵器器材ノ變
化ニ應スル攻撃法等ヲ考慮シ適宜戦法ニ創意ヲ

加ヘ敵ノ意表ニ出シルル攻撃成功ノ基礎ナリ

殊ニ特攻戦法ニ於テハ攻撃ノ時機進入ノ方向接敵ノ

方法、欺騙ノ處置等細部ニ亘リ常に創意ヲ累ホ

サルヘカラス

(三) 背後ヨリスル攻撃ノ價値

今次沖繩攻撃ニ於テ敵ノ警戒戒備ノ重點ハ北方

ニ向ヒアリテ臺灣方面ヨリスル攻撃ハ恰モ敵ノ背後ヨ

リ攻撃セルカ如キ狀況ヲ望セル爲九州方面ニ比シ敵

戦闘機ノ哨戒少ク而モ時々敵ノ有力艦隊(又ハ船

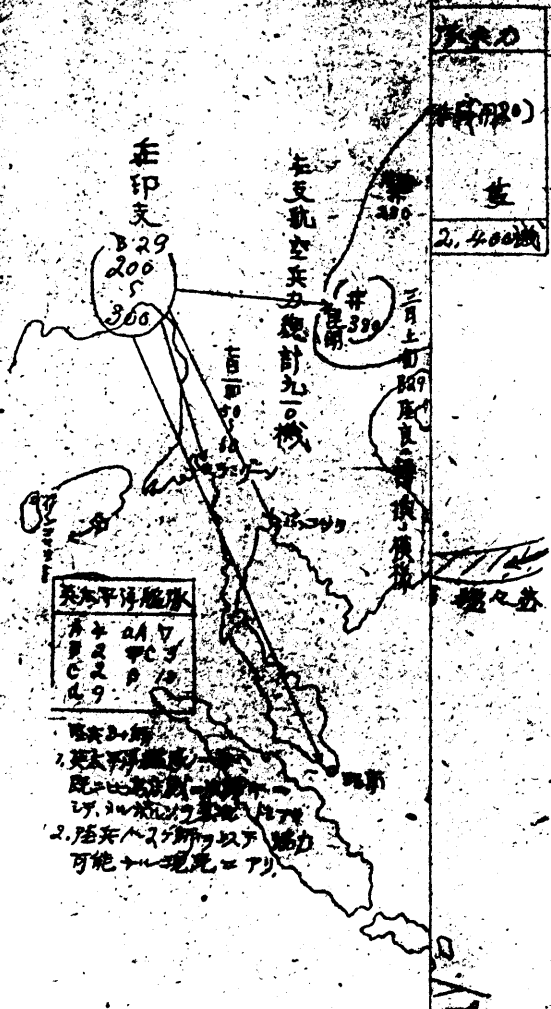
團)ハ遠ク慶良間西方洋上ニ離脱遊弋セシトア

一六

其、他細部ニ亘ル戰訓別冊ノ如シ

以テ北月後ニ龍衣ヲ著意ヲ必要トス
闘ノ如キ正面戰闘ニ墮スルコトナク常ニ有力部隊
ハ常ニ有効ナルヲ以テ航空作戰ニ於テハ地上戰
較的ニ僅少ナリキ將來戰ニ於テモ背後ヨリスル攻撃
リシヲ以テ優ク奇功ヲ奏セルノミナラス其ノ損害ハ比

附録第三



三月十日... 計七五至一〇〇機

三月下旬 敵機侵入 航空兵力 運用 計画 概要



太平洋艦隊兵力	
A	10
CA	5
CA	70~80 (作戦用20)
B	15
C	20~30
d	300
艦載機 2,400機	

太平洋艦隊	
A	4
B	2
C	2
d	9

陸軍3師
 1. 太平洋艦隊へ
 既ニ比島作戦ニ作戦中ニ
 シテ、比島ニシテ基地
 2. 陸軍ノ2師ヲ以テ 協力
 可能ナル現況ニアリ

本國より五至五師
 南洋方面より二至四師
 計七至一〇師
 航空基地ノ比島方面ニ約十五師師被派
 航空基地ノ比島方面ニ約十五師師被派

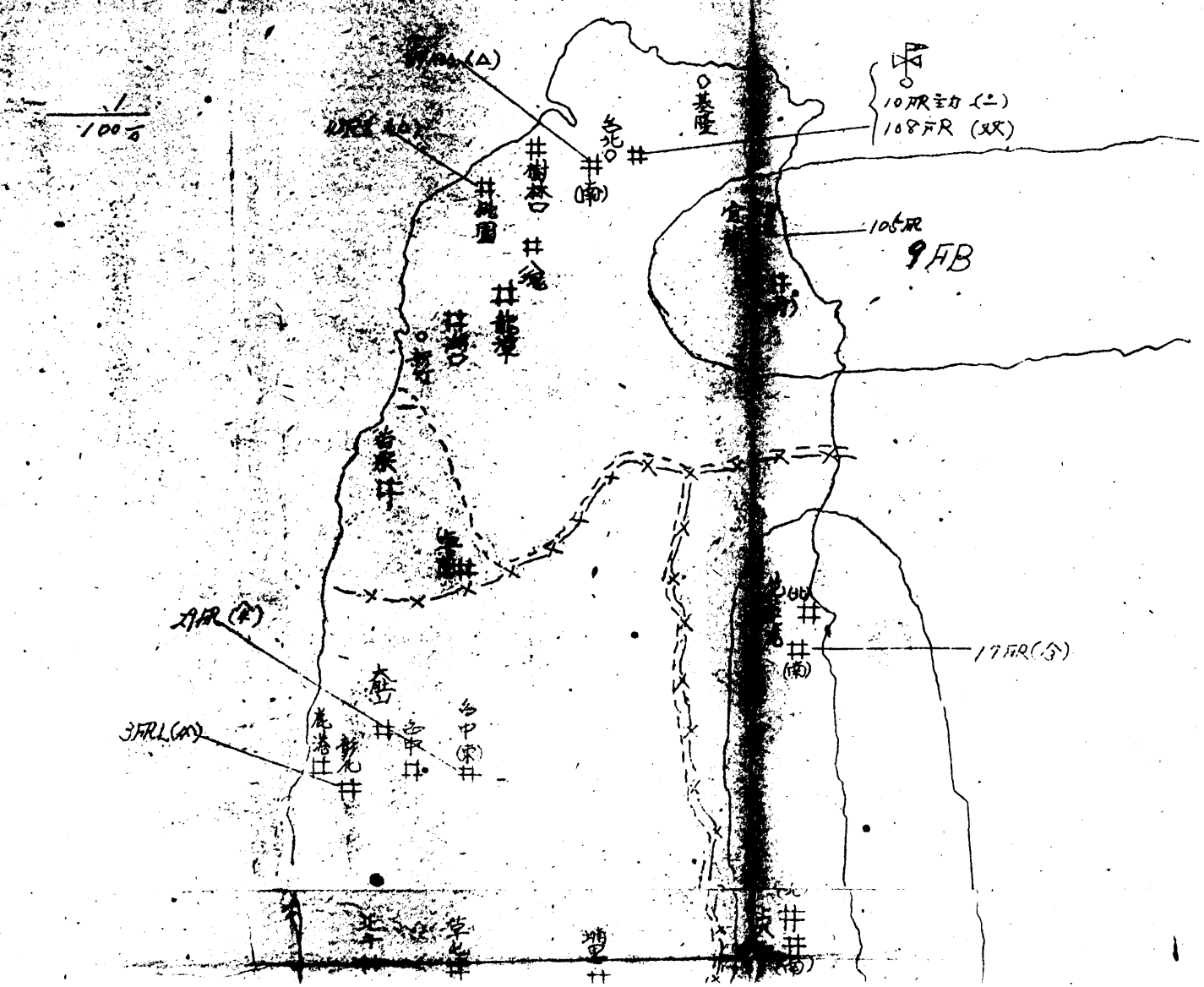
左ノリヤ基地航空總計五〇機

B29 300機
 中、200機

進出作戦用航空船艦 100~200隻
 太平洋方面に相当船艦 940隻

天航航空作戰地圖於此=飛行師團發展態勢(敵初打) (敵初打) 發展態勢團展師行飛入時於=時地開戰作空航號天

2	10	21
4	10	
14	31	
12	7	
7	19	
21	1	
5	1	
27	28	
6	12	
2	31	
8	43	
1	0	
4	6	
2	1	
0	6	
0	0	
2	7	13



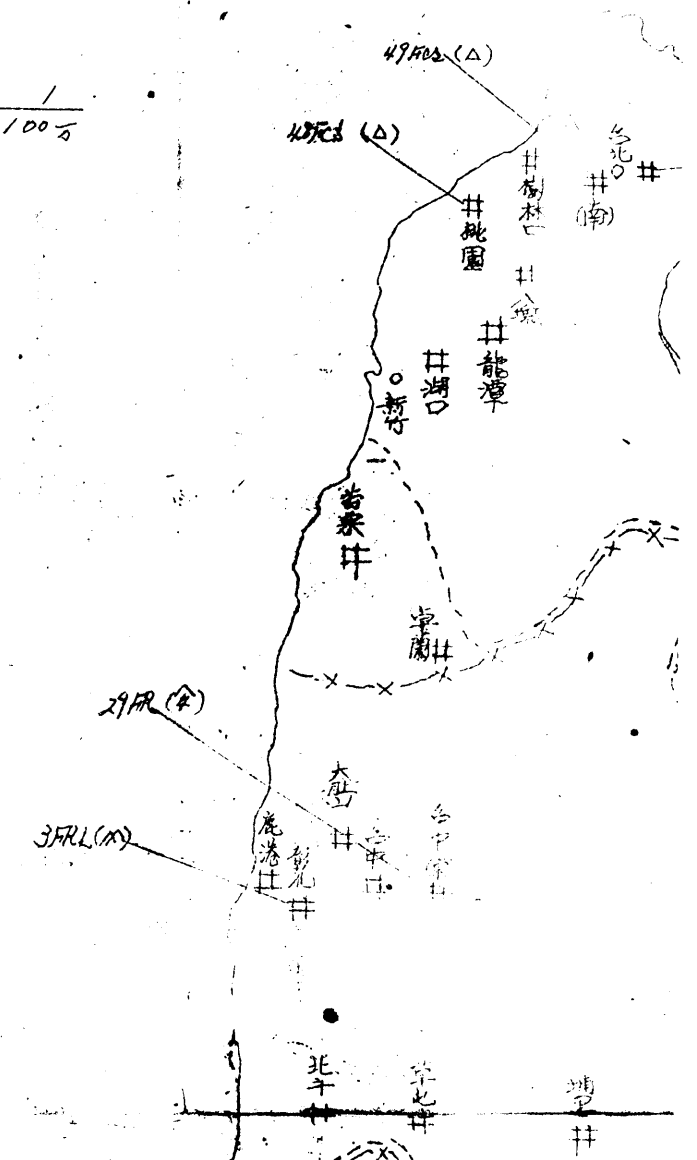
附圖第二共一

三月二十三日

機種	戰 隊	機 種				機 種		
		原 機	甲	乙	丙	丁	戊	
中四三	20 FR	20	11	4	5	1	10	21
	26 FR	8	3	2	3			
	204 FR	7	2	3	2			
	8 FRK	4	1	3				
	機 16 F	14	12	2			4	0
	計	53	29	14	10	1	14	21
中四四	29 FR	13		5	8			
	計	13		5	8			
中六一	19 FR	26	9	9	8		14	7
	19 FR	23	21	10	12	11	7	19
	105 FR	25	24	11	10	10	21	1
	23 FR	22	17	3	2		5	1
	計	136	71	33	32	11	47	28
中八四	29 FR	25	7	8	10		6	12
	8 FRK	19	8	6	5		2	31
	機 120 F	8	6	2				
	計	52	21	16	15		8	43
中五一	46 FR	10	4	4	2	1	1	0
	47 FR	10	3	3	4	2	4	6
	48 FR	10	5	2	3	1	2	1
	49 FR	9	4	2	3	1	0	6
	機 17 F	12	11	1	0	1	0	0
	計	51	27	12	12	6	7	13
中二七	8 FRK	21	8	7	6			
	機 116 F	2	2					
	機 117 F	6	5	1				
	機 122 F	3	3					
	計	32	18	8	6			
中七九	8 FRK	29	18	7	6			
	機 115 F	2	3	1				
	機 118 F	2	2					
	機 125 F	2	2					
	計	35	25	8	6			

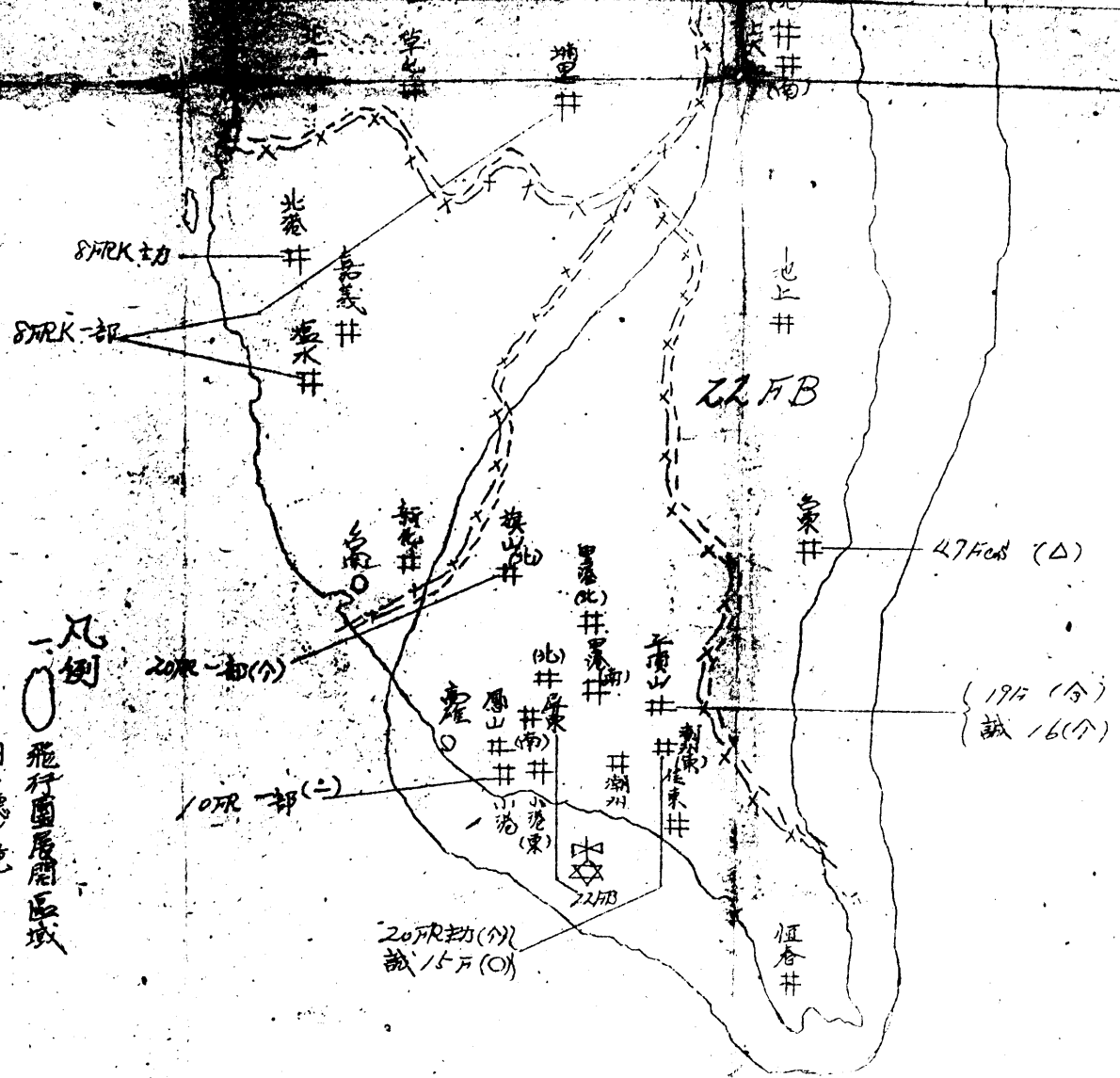
(敵部行飛) 圖要勢態

1/100万



6				
4	1	5	0	
4	1	5	0	
10	10	6	11	
10	10	6	11	
3	5	22	0	
0				
3	5	22	0	
8		3		
8		3		
114	114	112	116	
機	3	7	名	
所謂其他人				

一 凡例
 〇 飛行團屬屬區域
 二 州(廳)境
 三 航空地區隊担任地境



七		3	3						
		32	18	8	6				
			18	9					
			3	1					
		23	33	8	4				
五	3ARK	8	6	2					
五	計	8	2	1					
	計	11	8	3					
四	10FR	8	2	2	4	1	5	0	
八	計	8	2	2	4	1	5	0	
六	10FR	23	5	8	10	10	6	11	
六	計	23	5	8	10	10	6	11	
三	3ARK	21	10	8	3		22	0	
三	計	7	5	2	0				
二	11FR	2	1	1					
	計	30	16	11	3	5	22	0	
	10FR	21	8	4	8		3		
	計	3	2	1					
	計	24	10	6	8	11	3		
	合計	127	28	27	114	22	116		
	總計		4	8	1	3	3	名	
P810									
備考	本表採集者中ハ病氣入院等所預我地ハ人員7名マケテトス								

